

(協働版)

※(協働版)とは…

プロフィールを作成した27箇所¹の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

竹間学区

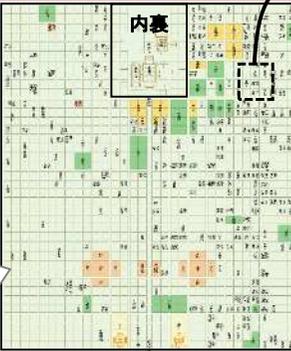
1 歴史を紡いできた町

時代とともに変化する町

1 平安時代

竹間学区は平安京の北東に位置し、大炊殿や小二条殿などの邸宅が立ち並んでいた。少将井殿には、枕草子にも記される京中の名井（少将井）があったとされる。¹⁻¹⁾

烏丸通や東洞院通には藤原氏の邸宅が多く立ち並び、「藤原ストリート」とも呼ばれていた。



2 鎌倉～室町時代

大炊道場は躰念仏で有名だった小松院間名寺の別名。大炊御門大路に位置していたことから大炊道場と呼ばれた。

京都を戦場とした応仁・文明の乱を通して、京都は上京と下京の二つの町に凝縮した。二つの町を結ぶ主たる道が室町通であった。中昔京師地図を確認すると、現在の京都御苑周辺には、①大炊道場や②祇園旅所少将井、③下御霊御旅所が位置していた。^{1-3) 1-4)}



3 安土桃山時代

16世紀末、豊臣秀吉による都市改造により、両替町通、車屋町通、間之町通がつけられた。



4 江戸時代

通りをはさんで形成された町が集まって結成した自治組織である「町組（ちょうぐみ）」が誕生する。¹⁻⁵⁾

学区内に残る石碑 (昭和5年頃、京都市史蹟会や竹間教育会により建碑)

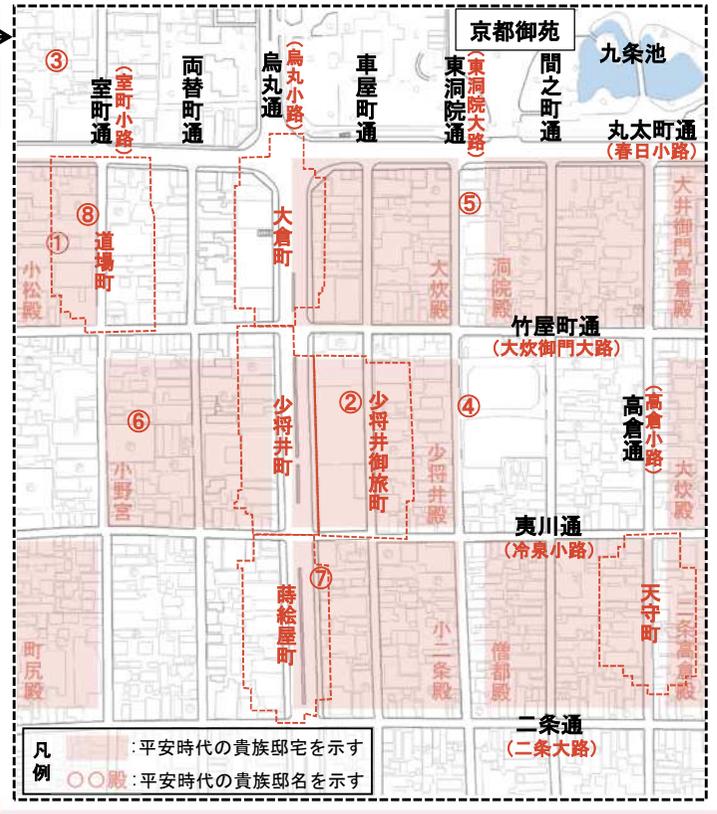
石碑	生没年	人物概要
④ 吉益東洞宅蹟	1702~1773	実験医学の道を切り開いた医者。
⑤ 岸駒居住地	1756~1838	有栖川宮に仕えた画家。
⑥ 新宮涼亭居住地	1787~1854	系統的な医学教育を行った医者。
⑦ 中沼了三先生	1816~1896	儒学者。維新前後に教育者として活躍。
⑧ 望月玉泉居住地	1834~1913	京都府画学校の創設に参加した日本画家。

天明の大火の後、一帯が消失して静かになり、多くの画家や医者等が居住した。特に蔦絵屋町や大倉町、天守町には多くの画家が居住したという。¹⁻⁶⁾

凡例：
 まち歩きやヒアリングによる情報等
 文献等による情報

【周辺の特徴】

・竹間学区は、平安京の北東に位置し、平安時代には藤原氏などの貴族の邸宅が立ち並んでいた。
 ・京都御苑が現在の形となったのは、昭和時代になってからで、江戸時代には現在のような石垣ではなく、公家町が広がっていた。



京都御所の歴史

1 平安時代の内裏

平安時代の内裏（天皇が住み、儀式や執務などを行う宮殿）は現在の千本丸太町付近に位置していた。その後、内裏の焼失が相次ぎ、京内の藤原氏の邸宅が天皇の居所として用いられることが多くなった。¹⁻¹¹⁾

2 御所と京都御苑

1331年	光厳天皇が東洞院土御門殿（現在の京都御所）を御所と定めた。	1-12) 1-13) 1-14) 1-15)
1708年頃	宝永の大火を契機に、御所周辺の町家が移転し、現在の京都御苑範囲が全て公家町へ変化。	
1790年	天明の大火で焼失した京都御所を、平安時代の様式を模した復古様式で再建。	
1869年	明治天皇東京還幸により御所周辺は空き家。「狐狸の住処」といわれる程荒廃。	
1877年	御所保存のため、「大内保存事業」を開始。樹木保存や門の移転、外周部への石積みなどを実施し苑地として整備。	
1914年	ほぼ現在の京都御苑が完成。	
1949年	国民公園として指定される。	

江戸時代初期には、御所を中心に、公家の邸宅が集まり、公家町が形成されていた。周辺には町家も立ち並んでいた。



▲新改内裏之図(1677)
 東京奠都の頃には、まちの活性化のため、九条池に屋形船を浮かべ海女のショーなどが行われた。

明治時代 大正・昭和時代 平成

1869年	竹間小学校完成
1910年頃	三大事業により烏丸・丸太町通拡幅
1992年	竹間小学校閉校
2000年	竹間公園開設

5 明治～昭和時代

慶応4年(1868)、江戸は東京と改められ、年号も明治となり、2度にわたる東京行幸が行われた。市内では、明治4年(1871)に日本最初の博覧会、京都博覧会が行われ、明治14年(1881)から大正2年(1913)にかけて京都御苑内の東南一画が会場として使用された。^{1-7) 1-8)}

明治2年(1869)、従来の町組が解体・再編され、現在の元学区につながる枠組みへ変わり、その後町組毎に小学校建設が進められた。当時の小学校は、総合庁舎としての機能を果たしており、運営経費は町組が負担していた。¹⁻⁹⁾



竹間学区 2 通りの特徴

町並み

1 高倉通



通りには、袖うだつ（延焼防止のため表の両側に壁を突き出したもの）が設けられた町家が残っている。

右図①付近に、京都画学校（現京都市立芸術大学）の学長も務めた山元春拳の終の棲家があった。敷地の奥に画室が残っている。

山元春拳 明治から昭和にかけて活躍した日本画家。京都を代表する画家の一人で、風景画や花鳥人物画などを描いた。²⁻¹⁾

2 間之町通

かつて大津町には、多くの屋敷が建ち並んでいたことから、御屋敷町とも呼ばれ、上村松園の邸宅も位置していた。



上村松園 明治から昭和にかけて活躍した日本画家。主に美人画を描き、昭和23年(1948)には女性初の文化勲章を受章。²⁻²⁾

3 東洞院通

平安時代の東洞院大路にあたる。洞院とは天皇が退位した後の住居を意味する。²⁻³⁾



4 車屋町通

夷川～二条の間には、創業300年を超えるお香屋が建っており、通りにはお香の香りが漂う。



5 烏丸通

元々は狭い道であったが、即位大礼の際の行幸通として、明治43年(1910)に幅員約22mまで整備された。²⁻⁴⁾

天皇陛下即位大礼行幸の際には、市民が旗をもって沿道に並んでいた。



烏丸通の街路樹について

明治45年(1912)に、福羽子爵が京都府知事ヘリノキを送り、京都駅～丸太町通間に植樹した。それが近代京都初の街路樹である。²⁻⁵⁾



6 両替町通

通り沿いには、②嘉祥閣と③冬青庵能舞台という2つの能楽堂・能舞台が位置している。どちらも昭和30年代に当該地に建設された。



凡例：

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- ・町家が多く、高塀づくりの大型町家等、特徴的な外観を有するものも点在している。
- ・特色を感じる通りが多く、家具の夷川、呉服の室町等、今も通り沿いに関連する商売を行う店舗がある。
- ・お香屋や呉服屋等の代々商いをしている店が多く、職住共存を感じる町。



8 丸太町通



通りには、明治時代から続くすま（大豆粉と飴蜜を練り合わせた和菓子）屋や、時代裂（室町時代までに中国から伝えられた絹織物の切れ地）研究所等が位置している。



御所の縁と石垣が特徴的な通りで、丸太町通に面して「間之町口」という御苑への入口がある。

9 竹屋町通

応仁の乱から豊臣秀吉の都市改造までは、上京と下京の中間に位置し、人家もまばらだった。江戸時代には、旧名の大炊通と竹屋町通と呼び名が併用されていた。²⁻⁶⁾



東洞院～間之町通間には竹間公園が位置し、地域コミュニティの場となっている。

10 夷川通

平安時代の冷泉小路にあたる。車屋町から寺町通の間は、京都家具の専門店街として知られる。²⁻³⁾



かつて川が流れており、どんどん焼け復興のために御所等に木を運ぶ木材屋が多く立ち並んでいた。

烏丸～寺町までのお店や会社で夷川会という商店街を構成。大正15年に家具関連の商店が集まり商店街を結成。現在は住宅関連の商店街として成長している。令和4年度には、地域の小学生と協力し、夷川通まち歩きMAPを作成した。

11 二条通

平安京の二条大路に当たり、朱雀大路に次ぐ広い通りだったが、中世に荒廃し、上京と下京の境をなした。天正期に豊臣秀吉の都市改造で再整備され、江戸期には二条城前のメインストリートとなった。新町から烏丸にかけては、薬屋が集り、二条組薬種仲間をつくり、享保7年(1722)には幕府公認となった。²⁻¹⁾



今も何件か漢方薬屋等が残っている。烏丸二条交差点の薬屋では、北大路魯山人が奉公した記録が残っている。

7 室町通



全国有数の和装卸売地として知られる。卸業者が集中するのは二条通から五条通の間である。²⁻³⁾

冷泉町には「冷泉町記録」が伝えられていた。他にも、冷泉町の誉勤商店からは「冷泉町文書」、鏡屋町では「鏡屋町文書」「鏡屋町内絵図」といった、町の記録文書が発見されている。

道場町には、五箇条の御誓文の草案が作成された場所がある。幕末期には「教諭所」（庶民の教育機関）も存在していた。



▲鏡屋町町内絵図(1862)
江戸時代の町内の宅地規模や所有者名などを記した絵図(鏡屋町住人所有)。

冷泉町記録 天正年間(1573-1592)から元文年間(1736-1741)の近世初頭の町の様子を伝える、京都の町記録で最も古い史料。江戸時代初期の政治的変動が続く中、一町共同体がいかなる対応を示し、その維持運営にあたったかを記す。²⁻⁶⁾

竹間学区

3 伝統行事や歴史的な建造物

伝統・文化

1 光澤寺

滋賀県の真宗木辺派錦織寺の末寺である。天正19年(1591)、兼帯所(御門主の休憩所)として創建されたが蛤御門の変で焼失、明治22年(1889)に再建された。災禍を逃れた御本尊の阿弥陀如来は、現在も大切に祀られている。



▲左：兼帯所を示す碑
右：夷町のお地藏様

夷町のお地藏様を預かっており、同町のお地藏盆は本堂で執り行っている。竹間学区の戦没者慰霊碑も預かり、お盆の光澤寺門徒の永代経法要時にお祀りしている。

2 下御霊神社

平安初期、各地で行われた御霊会をまとめ八所御霊として祀ったのが創祀の由来とされる。天正18年(1590)、豊臣秀吉の区画整理により現在地の寺町丸太町下るに移転³⁻¹⁾



地域とのかかわりも深く、氏子域は竹間学区をはじめ7学区にまたがる。春と秋には境内で氏子域の町内が参加するお千度参りを執り行っており、町内のコミュニケーションを図る場にもなっている。

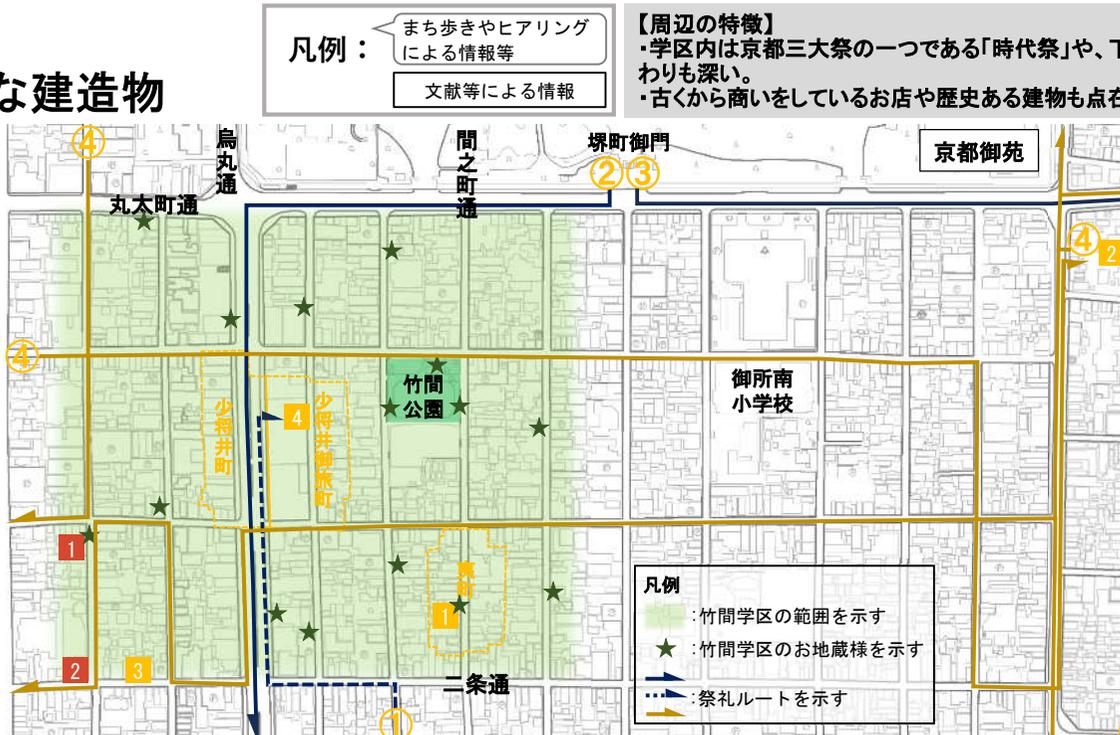
お千度参り 個人で行うお百度参りを町内で行う行事。本殿又は拝殿の周りを幾度か回ったのちに祈禱し、町内の融和や安泰を祈る。

3 薬祖(やくそ)神社

幕末に二条通の薬問屋が創始した祠。大国主命、神農、ヒポクラテスという日中と古代ギリシャの薬に縁の深い神を祀る³⁻²⁾



昔は「神農さん」という薬祭が行われ、二条通に出店が並び、賑わいを見せていた。



歴史的な建築物

1 誉勤(こんかん)商店

宝暦元年(1751)創業の金襴を取り扱う店。生地も作っており、糸の本数や糸を何本撚り合わせるかなどの仕様、図案や色もオリジナルで考えている。



金襴(きんらん)とは
 幅60~70cmの反物のこと。着物に使用される反物より幅が広い。ひな人形の衣装などに用いられる。

▲景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、指定京町家に指定

2 三井越後屋京本店記念庭園

三井京都創業の地。門扉には三井のシンボル「丸に井桁三」、内部には越後谷京本店時代から三国稲荷大明神が祀られているなど、330余年に及ぶ歴史を今に伝えている³⁻⁵⁾



昔は中で遊ばせてもらっており、映画を流すこともあった。近所には、三井氏、中川氏、矢代内氏など、三井家の関係者が多く住んでいた。

門扉の紋→



4 祭礼ルート



▲丸太通を通る時代祭の行列

▲堺町御門

少将井御旅所があったことから、かつて祇園祭の神輿ルート(①)になっていた。

時代祭(②)や葵祭(③)は、京都御苑の堺町御門を出発し、市内を巡行する。

令和元年には神幸祭の巡幸を約80年ぶりに、仙洞御所前での神事を約150年ぶりに復活した。



▲二条大橋を渡る下御霊神社還幸祭の行列(写真提供：下御霊神社)

5 少将井と少将井御旅所

京都新聞社に設置されているプレート→

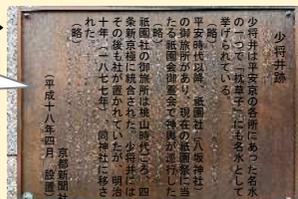
少将井町、少将井御旅町の付近には少将井があり、それが町名の由来になっている。

平安時代頃、少将井の地には、祇園社(八坂神社)の御旅所があり、西御座(神仏分離の影響により、明治から東御座に変更)の神輿が担ぎ込まれ、井の上に安置されたという³⁻³⁾

少将井の跡にはお社があったが、御苑内の宗像神社へ移設された。毎年7月24日には、少将井御旅町の住民が宗像神社へお参りする。



宗像神社 北家藤原氏の流れを汲む花山院家の鎮守社として祀られている。平安京の守護神として延暦14年(793)に筑前国の宗像神社を勧請したのが始まり。京都御苑の西南方に祀られている³⁻⁴⁾



地域コミュニティ

1 地藏盆



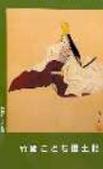
各町内では、代々大切に受け継がれてきたお地藏様を祀り、8月に地藏盆が行われる。数珠廻しで使う数珠も、町内に受け継がれてきたものである。

数珠廻しに使う数珠→



2 竹間子ども風土記

竹間



竹間学区の歴史を次世代に伝えたいという想いから、竹間学区自治連合会が、地域の成り立ちや町名の由来などを71ページにわたりまとめた。平成25年に発行され、竹間学区の各世帯へ配布された。

地域に少将井があり、お社が宗像神社に移転したなど、地域の歴史を知る子どもが少なかったことが作成のきっかけ。

竹間学区

4 竹間公園を核としたまちづくり

凡例：
 まち歩きやヒアリングによる情報等
 文献等による情報

【周辺の特徴】
 ・学区名である「竹間」とは、竹間小学校が竹屋町通と間之町通の角に位置していることから、通り名の頭文字をとってつけられた。
 ・竹間自治連合会を中心に、竹間公園を核としたまちづくり活動が、1年を通して活発に執り行われている。

竹間公園での地域の取り組み

平成4年に竹間小学校が閉校し、平成12年に小学校跡地に竹間公園とこどもみらい館・京都市立中京もえぎ幼稚園が完成した。令和3年度から令和5年度には、京都市が主体となり、公園にキッチンカーを置くなど、公園利活用に関する取組を開始。令和5年度には、竹間自治連合会、中京もえぎ幼稚園、こどもみらい館が連携し、竹間公園を核として核団体の理想の姿を実現するために取り組む「竹間BASE」を始めた。地域コミュニティの活性化につながる”持続可能で魅力ある公園づくり”に、京都市建設局みどり政策推進室と協働して取り組んでいる。

各団体の理想の姿とは…
 竹間自治連合会：【家族のようなまち】
 中京もえぎ幼稚園：【地域の幼稚園】
 こどもみらい館：【人が繋がる施設】

竹間BASEでは、竹間公園を舞台に、様々なイベントを通して、地域コミュニティ活性化に関する活動を実施している。ロゴは地域の方が描いたもの。




かまどベンチ
 災害時の炊き出し訓練の際に、焼き芋を作って利用方法を学ぶ。

落ち葉たい肥熟成箱
 毎週土曜に清掃活動を実施。落ち葉はたい肥として利用している。

広場
 休日になると、学区内外から人が集まり賑わう。運動会等、学区のイベントも開催されている。

地域みんなで使える花壇として令和6年11月にOPEN

昔は学校に市電が置いてあり、特別教室としても使われていた。

こどもみらい館・中京もえぎ幼稚園
 こどもみらい館は、子育て支援の取組を推進する施設。中京区唯一の市立幼稚園（中京もえぎ幼稚園）を併設している。

自治会館

中京消防団竹間分団

令和6年度 竹間公園での取り組み

4月 こいのぼりあげ
 中京もえぎ幼稚園でこいのぼりを上げながら「こいのぼり」を歌唱。あいにくの雨天で中京もえぎ幼稚園内での開催となった。



7月 ラジオ体操
 夏休み期間中の最初と最後の1週間に、ラジオ体操を実施。ラジオ体操創設者から直接体操を教わった方に、指導いただいている。



7月 藤袴を植える会
 中京もえぎ幼稚園の園児により、絶滅危惧種であるフジバカマの苗を植える会。植えた苗は公園に置かれ、皆で成長を見守る。



秋にはフジバカマの花が咲き、アサギマダラなどの蝶が飛来した。右の写真はツマグロヒョウモン。



8月 夏まつり
 地域の子もたちが、中京もえぎ音頭や御所南音頭を踊る。他にも、盆踊りや花火大会を開催し、夜まで賑わった。



10月 区民運動会
 各町に分かれ、様々な競技を競い合う。公園は賑やかな活気に包まれた。



11月 みんなの竹間ガーデン
 みんなの竹間ガーデンのオープンを記念し、チューリップの球根を植えた。また、公園の清掃イベントも実施し、掃除後には芋煮と焼き芋が振る舞われた。



12月 防災訓練
 各町内から合計80人程度参加。救命救急・消火訓練・仮設トイレの仕組みや、避難所の設営について、実践を交えながら学んだ。



1月 もちつき大会
 つきたてのおもちが振る舞われ、公園内は賑わいに包まれた。昔ながらの遊びも行われ、風揚げ等を楽しむ親子連れも多い。



これからの取り組み

京都市の「Park-UP事業」を活用し、竹間自治連合会の中に「公園運営委員会」を立ち上げ、「3世代が楽しめるテーマパークのような公園」をテーマに、地域の人々で地域のために必要なルール作りに取り組んでいる。

令和6年度には、御所南小学校の児童と一緒に、どんなルールがあれば良いかを考えた。



1 歴史を紡いできた町

- 1-1 「京都市の地名」平凡社
- 1-2 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所HP <https://www.kyoto-arc.or.jp/kyouzu.html>
- 1-3 「近世京都町共同体史料の総合的研究」吉田伸之
- 1-4 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「都市のかたちの変遷」 https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/toshi_h_frame.html
- 1-5 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「町組」 https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/sheetlist_frame.html
- 1-6 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「いしぶみデータベース」 https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/gvoselist_frame.html
- 1-7 上京区HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyoo/page/0000012512.html>
- 1-8 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「京都の博覧会」 <https://www2.city.kyoto.lg.jp/html/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/toshi29.html>
- 1-9 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「町組改正と小学校」 <https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/toshi26.html>
- 1-10 「京都百年パノラマ館」淡交社
- 1-11 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「内裏から京都御苑へ」 <https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/bunka07.html>
- 1-12 環境省HP https://www.env.go.jp/garden/kyotogyoen/1_intro/history.html
- 1-13 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「宝永の大火」 <https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/toshi23.html>
- 1-14 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都「京都の歴史年表 都市のすがた」 https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/toshi_n_frame.html
- 1-15 「京都大辞典」淡交社

2 通りの特徴

- 2-1 「京都大辞典」淡交社
- 2-2 国立国会図書館 近代日本人の肖像 <https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/4126/>
- 2-3 「京都の大路小路」小学館
- 2-4 「国家儀礼を契機とした景観形成-近代期における京都駅前を事例として-」 中川祐希
- 2-5 京都市建設局HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000109975.html>
- 2-6 「京都市の地名」平凡社

3 伝統行事や歴史的な建造物

- 3-1 下御霊神社HP <https://shimogoryo.main.jp/%e7%94%b1%e7%b7%92%e3%83%bb%e6%b2%bf%e9%9d%a9/>
- 3-2 「京都大辞典」淡交社
- 3-3 「京都市の地名」平凡社
- 3-4 上京区HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyoo/page/0000012386.html>
- 3-5 三井広報委員会HP <https://www.mitsuipr.com/sights/historic-places/11/>